

新名称のご案内

情報科学技術(Information Science and Technology)

CRDS(研究開発戦略センター)では、電子情報通信ユニットの名称を変更し、「情報科学技術ユニット(Information Science and Technology Unit)」とします。

電子や通信といった領域をベースにし、さらに情報の持つ社会的な意味や人間との関わりなど上位の概念をも含む領域をユニットの活動範囲とし、科学として情報に関わる技術を体系化し、ハードウェア、ソフトウェア、インフラからアーキテクチャーにわたるサイエンスと技術の研究、政策提言を目標とします。

これまでの経緯

「電子情報通信ユニット」は、2009年4月に設置されました。エレクトロニクスとフォトニクスを基盤に置き、さらにロボティクス、コンピューティング、ネットワークを主な対象領域として、俯瞰マップの作成、俯瞰マップに基づく研究開発領域・課題の抽出、俯瞰ベンチマーキング、研究者コミュニティの形成・維持、政府関係機関との連携などを行ってきました。

状況変化

昨今の情報関連の研究開発においては、従来の電子情報技術ではあまり注目されることのなかった領域にスポットライトがあたっています。また、情報だけではなく現実の物理世界とのインタラクションを強く意識することが多くなってきています。これらは、より効率的で高度な社会システムの構築や運用・管理などが大きな目標の一つとなっています。従来の電子情報通信の領域を超えています。

また、通信においても情報サービスのあるべき姿やその利用方法、権利保護などの法制度などについても十分な検討が必要になって来ています。

以上のように、ユニット設立当初に設定されたエレクトロニクス、フォトニクス、ロボティクス、コンピューティング、ネットワークという領域だけではくれないところまでユニットとしての活動範囲が広がって来ました。そこで、ユニットの名称を「情報科学技術ユニット(Information Science and Technology Unit)」とすることにしました。

CRDS 情報科学技術ユニットの最近の活動

情報技術分野の俯瞰

- 研究開発の俯瞰報告書 電子情報通信分野 (2013年3月)
<http://www.jst.go.jp/crds/pdf/2012/FR/CRDS-FY2012-FR-05.pdf>

新領域「知のコンピューティング」などの立ち上げ

- 「知のコンピューティング -人と機械が共創する社会を目指して-」 Wisdom Computing Summit 2013 (2013年7月)
<http://www.jst.go.jp/crds/pdf/2013/WR/CRDS-FY2013-WR-05.pdf>
- 科学技術未来戦略ワークショップ「知のコンピューティング:知のメディア」(2013年10月)
- 科学技術未来戦略ワークショップ「知のコンピューティング:知のプラットフォーム」(2013年11月)
- CPS(Cyber Physical Systems)基盤技術の研究開発とその社会への導入に関する提案 -高齢者の社会参加促進を事例として (2013年3月)
<http://www.jst.go.jp/crds/pdf/2012/SP/CRDS-FY2012-SP-05.pdf>
- 科学技術未来戦略ワークショップ報告書CPS技術とその社会への導入に関するワークショップ (2012年12月)
<http://www.jst.go.jp/crds/pdf/2012/WR/CRDS-FY2012-WR-15.pdf>

NSF(national Science Foundation)とビッグデータでの協業

- A joint NSF and JST Workshop: Examining and Prioritizing Collaborative Research Opportunities in Big Data and Disaster Management Research (2013年5月)
<https://grait-dm.gatech.edu/nsf-jst-workshop-may-23-24-2013/>

